

## 2. 地域包括支援センターの運営について

### (1) 令和元年度の実績について

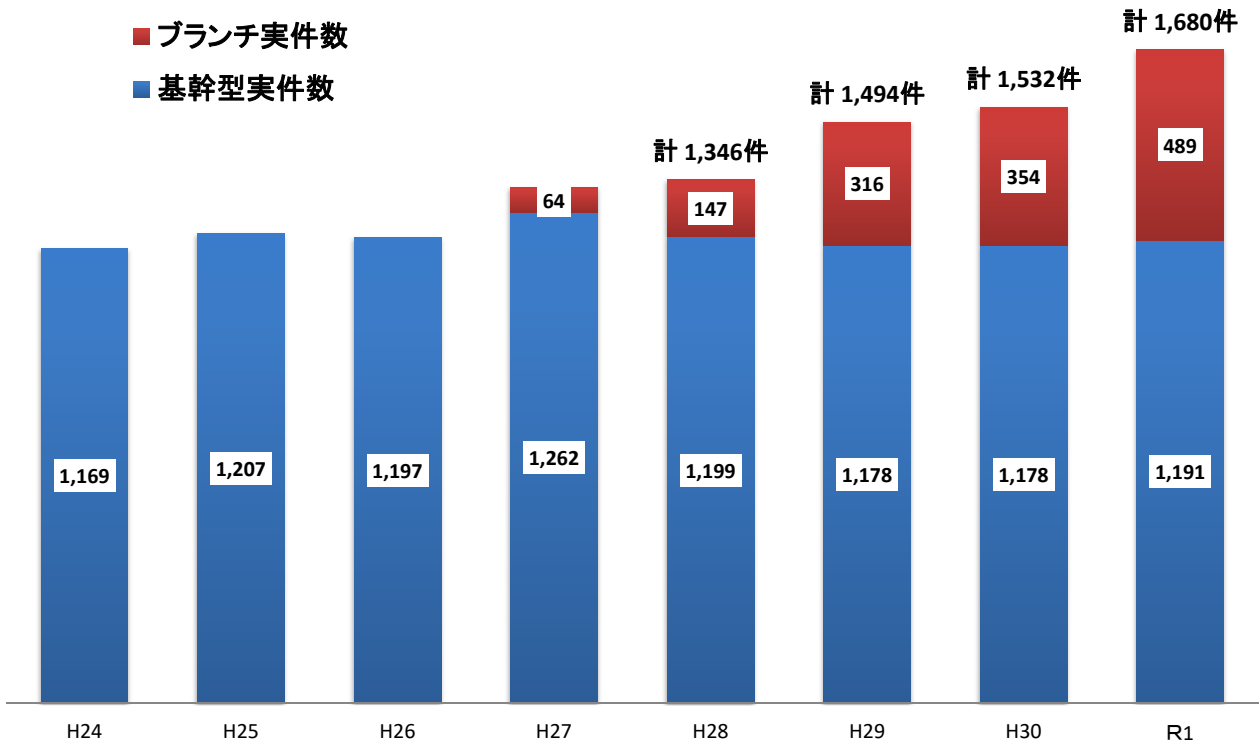


加賀市健康福祉部長寿課

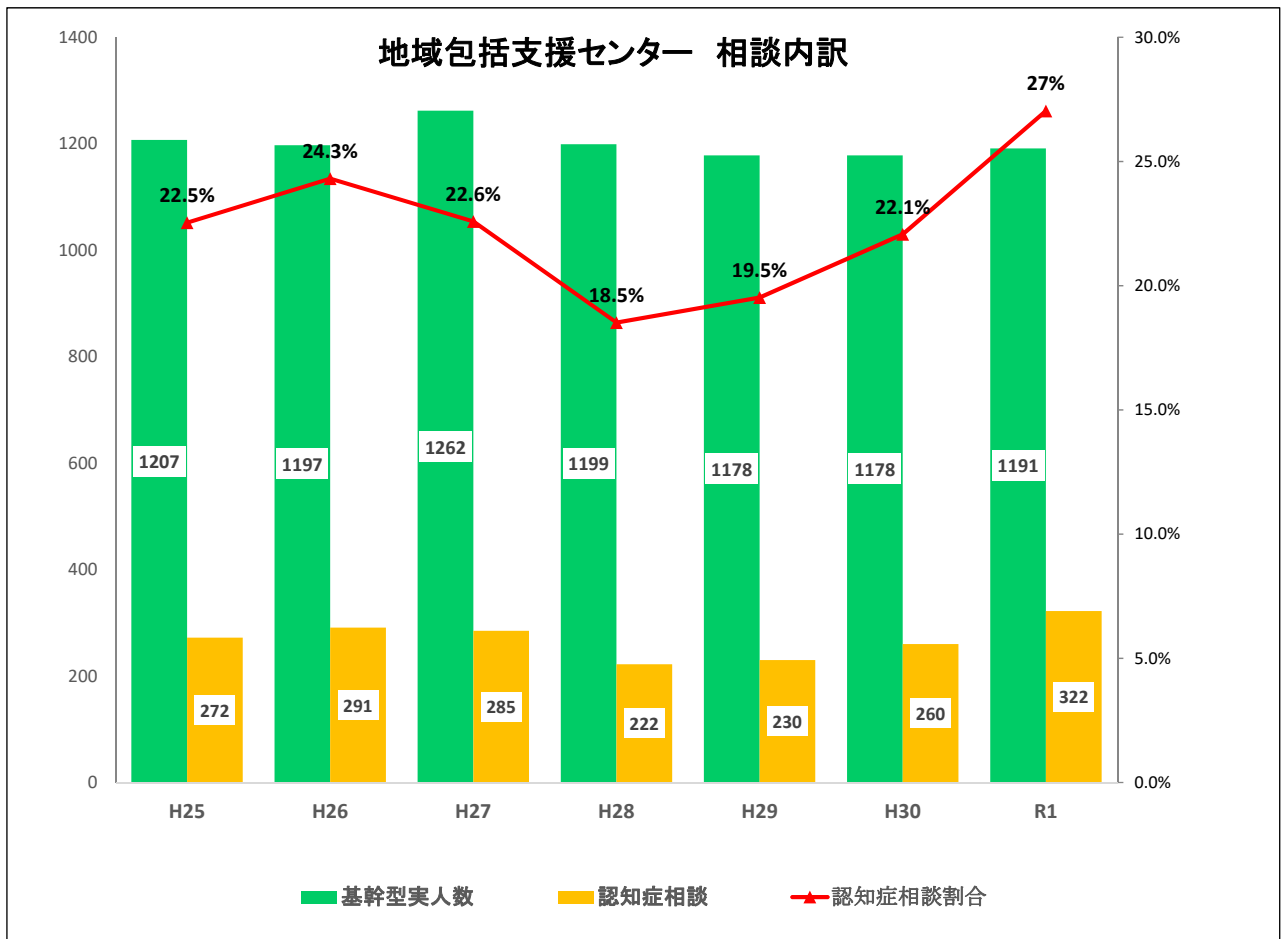
令和2年6月10日



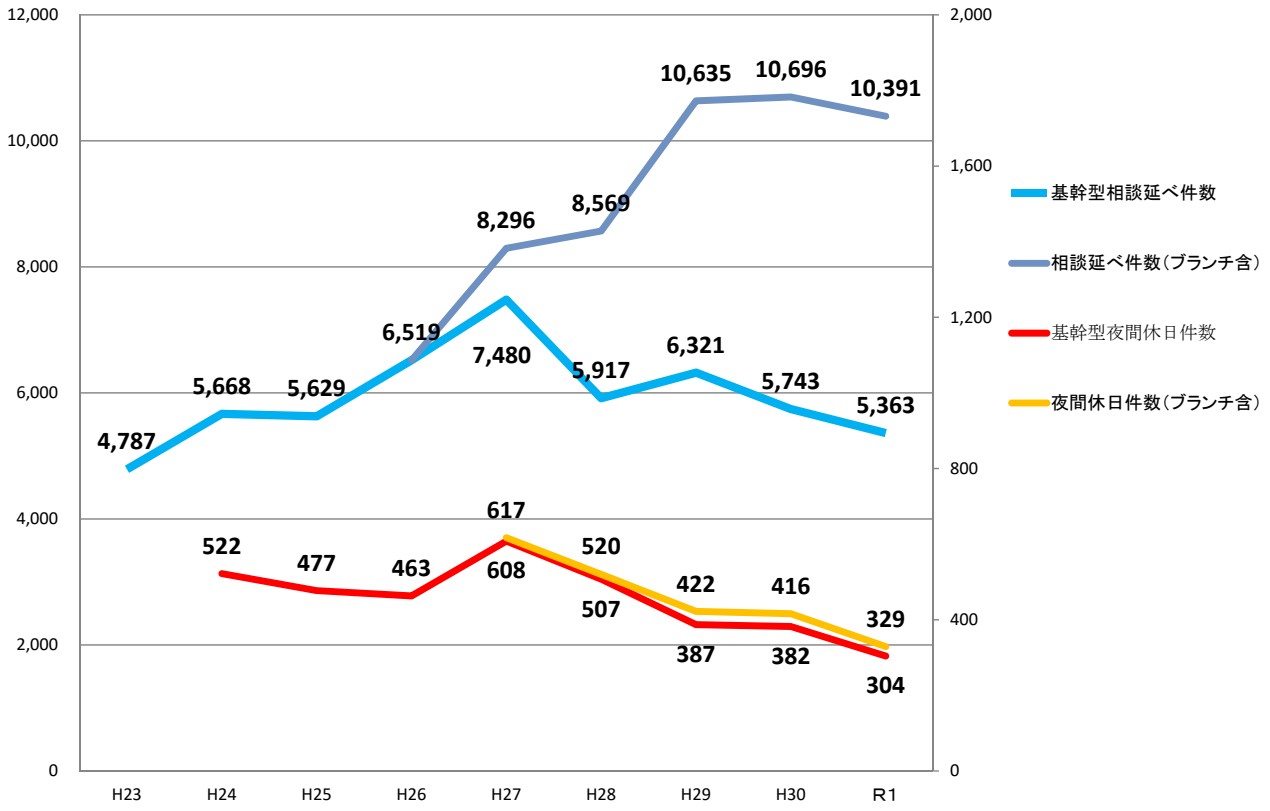
## 地域包括支援センター 相談実件数



※H27より基幹型及びサブセンターの集計



## 地域包括支援センター 相談延べ件数 (基幹型・サブセンター・ブランチ含む)



## 令和元年度 地域包括支援センターブランチ相談件数 (延べ)

H31年4月～R2年3月	相談件数 (件数を入力)										全体 ①+② 合計	地域ケ ア会議 (個別) (件数)	社会資 源の関 わり (回数)	研修 連絡会 等 (回数)
	日中(日報合計①)					夜間(日報合計②)								
	ブランチ	訪問	来所	電話		その他 (メー ル・文 書)	訪問	来所	電話					
相談				連絡・調整	相談				連絡・調整					
なでしこの家	263	10	90	27	1	0	0	5	1	0	397	9	51	44
きょうまち	295	16	38	24	1	0	0	0	0	0	374	0	13	30
なんごうえがお	125	23	97	90	1	1	0	5	1	0	343	0	138	40
すみれの家	223	75	199	115	3	0	0	0	0	0	615	1	67	47
ききょうが丘	274	77	188	75	21	0	0	0	0	0	635	0	53	37
いらっせ庄	85	11	29	15	9	1	0	0	0	0	150	1	42	20
ちよくし	31	3	8	21	0	0	0	0	0	0	63	2	22	32
いらっせ湖城	317	15	135	28	1	0	0	0	0	0	496	0	0	24
きんめい	96	16	22	32	1	0	0	0	0	0	167	4	76	32
はしたて	124	8	45	3	9	1	0	3	0	0	193	6	28	36
ひまわりの家	127	21	65	47	0	0	0	0	0	0	260	0	50	28
いらっせ分校	57	5	2	35	0	0	0	0	0	0	99	0	17	22
いらっせ松が丘	126	11	42	237	1	2	1	1	1	0	422	0	28	32
さくみ	223	23	104	0	0	0	0	0	0	0	350	0	80	38
お茶の間さろん	261	20	114	67	0	1	0	0	1	0	464	0	24	27
合計	2,627	334	1,178	816	48	6	1	14	4	0	5,028	23	689	489
日中夜間 別合計	5,003					25								

## 令和元年度 地域包括支援センターブランチ相談件数（新規実件数）

地区	事業所名	新規相談受付件数 (総数)	地区集計	新規相談受付件数 (包括経由)	地区集計	新規相談受付件数 (包括経由除く)	地区集計
大聖寺	大聖寺なでしこの家	70	136	34	41	36	95
	小規模多機能ホームきょうまち	66		7		59	
南郷	小規模多機能ホームなんごうえがお	38	38	14	14	24	24
山代	山代すみれの家	89	160	30	63	59	97
	ニーズ対応型小規模多機能ホームききょうが丘	71		33		38	
庄	小規模多機能ホームいらっせ庄	20	20	0	0	20	20
勅使・東谷口	小規模特別養護老人ホームちよくし	19	19	9	9	10	10
片山津	小規模多機能ホームいらっせ湖城	56	56	39	39	17	17
金明	小規模多機能ホームきんめい	11	11	1	1	10	10
橋立	小規模多機能ホームはしたて	31	31	4	4	27	27
動橋	動橋ひまわりの家	50	50	1	1	49	49
分校	小規模多機能ホームいらっせ分校	11	11	0	0	11	11
作見	小規模多機能ホームいらっせ松が丘	37	81	1	28	36	53
	小規模多機能ハウスさくみ	44		27		17	
山中 (温泉、西谷、東谷)	富士見通りお茶の間さろん	85	85	9	9	76	76
合計		698		209		489	

●新規件数698件のうち、ブランチへ直接相談している件数が489件であり、約7割となっている。

### 相談内容の傾向

- 統合失調症や躁うつ病、アルコール依存症等精神疾患を抱えた高齢者の相談が増えている。
- 認知症の高齢者の相談。
- 世帯に支援を必要とする家族がおり、高齢者のみならず、家族支援が必要なケースが多い。(生活困窮、家族が精神疾患を患っている方など)
- 身寄りがない方の支援。
- 医療につながっていない方への支援。
- 65歳未満の方の生活支援の相談

支援していくためには・・・

- 他課や他機関と連携が不可欠。
- 地域包括支援センター職員の質の向上が必要。
- 断らない相談窓口機能が必要。(たらいまわしにしない)

# 地域包括支援センターブランチの設置及び地域福祉コーディネート業務内容

## ①ブランチの主たる業務

○地域の身近な窓口として基幹型地域包括支援センター(直営)につなぐこと

【事業内容】 地区の高齢者の個別相談、支援、個別の地域ケア会議等

【機能】 24時間365日の対応、必要時の訪問、緊急宿泊対応可能

## ②地域福祉コーディネート業務の主たる活動内容

○友人、ご近所、世話焼さん、地域団体等の担い手とのコーディネートや個の支援をとおり地域づくりに繋げること

【事業内容】 地域資源の把握、開発、関係者間の情報共有、交流活動の開催支援

【機能】 高齢者と地域資源をマッチングするためのコーディネート機能

地域の地域福祉活動拠点等後方支援

## 目指すべき姿

- ①早めのお会いと身近で相談しやすい拠点  
⇒地域で身近な相談体制やすぐに駆けつけられる体制
- ②どんな状態になっても地域で暮らし続けられる体制  
⇒介護サービス利用有無にかかわらず「柔軟性」「緊急時対応」「訪問機能の充実」が必要
- ③地域での住民主体の生活支援の体制構築  
⇒介護問題を地域住民が自身のこととしても捉えられるような、地域全体で支える仕組み、機会の創出(高齢者の社会参加できる人はたくさんいる)

◆地区はそれぞれ、住んでいる人の考えや風習、社会資源が異なる。その特徴を生かし、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるような地域をつくることを目指す。

## 地域の身近な相談窓口(市内15カ所)

### 地区の高齢者こころまちセンター をご利用ください

相談を受付し、必要な情報提供を行ったり、市役所内の基幹型高齢者こころまちセンターにつないでいただけます。



平成31年1月現在

<b>大聖寺</b>	大聖寺なでしこの家 大聖寺番場町29番地4 ☎72-1882	<b>橋立</b>	小規模多機能ホームはしたて 橋立町イ乙54番地1 ☎75-7384	<b>片山津</b>	小規模多機能ホームいらっせ湖城 湖城町3丁目125番地 ☎74-8122	<b>金明</b>	小規模多機能ホームきんめい 野田町夕8番地1 ☎74-7401
<b>南郷</b>	小規模多機能ホームなんごうえがお 上河崎町才120番地 ☎75-7815	<b>作見</b>	小規模多機能ホームいらっせ松が丘 松が丘1丁目17番地8 ☎72-2050	<b>動橋</b>	動橋ひまわりの家 動橋町イ19番地1 ☎74-1611	<b>分校</b>	小規模多機能ホームいらっせ分校 分校町リ338番1 ☎74-1301
<b>山代</b>	山代すみれの家 山代温泉ハ74番地5 ☎77-1505	<b>庄</b>	小規模多機能ホームいらっせ庄 庄町ル167番 ☎74-5650				
<b>勅東谷</b>	ニーズ対応型 小規模多機能ホーム ききょうが丘 山代温泉桔梗丘4丁目1番1 ☎76-3660	<b>勅東谷使口</b>	小規模特別 養護老人ホーム ちよくし 勅使町ル75番地1 ☎77-3911				
<b>山中</b>	富士見通りお茶の間さろん 山中温泉白山町ノ14番1 ☎78-2555	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">                 市内7圏域それぞれに「地区高齢者こころまちセンター」があります。お近くの窓口にご相談ください。             </div>					

## 令和元年度 ブランチ連絡会実績

回数	開催日	主な内容	参加人数	
			ランチ	包括
1	4月5日	職員紹介、企画委員について、報告様式の変更、ランチ連絡会などの日程	22人	7人
2	5月10日	ブロック年間スケジュール・目標について、訪問記録の時間確保の工夫点	24人	7人
3	6月7日	ランチ活動の振り返り、連絡会・勉強会のあり方、意見交換「第2層協議体の実施方法・工夫点」	20人	7人
4	7月5日	ハイリスク者訪問対応、意見交換「ランチチラン・乗り合いタクシー利用方法や困りどころ」	20人	8人
5	8月2日	ランチ勉強会企画、意見交換「かがやきさんとの連携」、認知症大綱について	24人	7人
6	9月5日	意見交換「基幹相談支援センターとの連携のために」、健診未受診者への勧奨の実施と効果	18人	8人
7	10月4日	短期集中予防サービス、ミニレクチャー「認知症の人の意思決定支援ガイドライン」	21人	7人
8	11月1日	地区データ(分析シート)から今後の取組みを考える	19人	8人
9	12月6日	住宅改修について、意見交換会「基幹相談支援センターの役割・高齢分野との連携」	20人	8人
10	1月9日	意見交換会「シニア活動応援事業とmellowかがの取組み」	22人	7人
11	2月7日	認知症国際アジア会議報告、意見交換「勉強会を受けて、ランチとしてできること(すぐ、工夫次第で、予算次第で)」	20人	8人
12	3月6日	包括のあり方(ランチヒアリング結果)、今年度の振り返りと来年度の取組み、新型コロナウイルス対応	17人	7人

\*毎月、ランチ連絡会の後、4圏域でブロック連絡会を開催している。

\*ブロック連絡会での協議事項については、翌月のランチ連絡会で報告している。

\*12月以降、基幹相談支援センターの相談員が、ランチとの連携のため連絡会に参加している。

## 令和元年度 ブランチ勉強会実績

	日付	講師	内容	参加人数
1	9月7日	講師:岩尾 貢氏 (石川県認知症介護指導者・社会福祉法人共友会 理事長) ファシリテーター: 蔭西操氏	面接技術研修①(「かかわりとは」) (相談援助の基本的「き」) ・相談援助の基本姿勢について ・人と状況の全体性等	47名 (障害の相談支援専門員も参加)
2	9月20日		「面接技術②(面接技術の基本的「き」)」 ・コミュニケーションとは ・面接の基本について講義及び演習	27名
3	10月7日		「面接技術③(面接技術の基本的「き」)」 ・バイステックの7原則について知る ・インテーク面接について(ロールプレイ)	30名
4	10月28日	講師:地域包括支援センター職員	ランチ勉強会(理解編)① ・オリエンテーション ・加賀市地域包括ケアビジョンとは ・包括の機能ランチの役割	20名
5	11月11日	講師:地域包括支援センター職員	ランチ勉強会(理解編)② ・介護保険制度 ・介護予防事業 ・相談の流れ	18名
6	12月4日	講師及び助言: 山越孝浩氏 (加賀市地域福祉コーディネートアドバイザー・ 全国小規模多機能型居宅介護連絡会) 司会進行及びコメント: 地域包括支援センター職員	ランチ勉強会(基礎編)① ・事例を多角的にみることで、新たな視点に気づく。 ・成功事例の中から、自らの取り組みで活かせる部分を考え、かつ発表者に出来ていることを「意識的に出来る」ようにするための助言(褒める)をおこなう	35名
7	1月16日		ランチ勉強会(基礎編)② ・基礎編①と同様に実施。	32名
8	2月5日	講師及び助言: 山越孝浩氏 (加賀市地域福祉コーディネートアドバイザー・ 全国小規模多機能型居宅介護連絡会) 司会進行及びコメント: 地域包括支援センター職員	ランチ勉強会(実践編) テーマ「地域福祉コーディネートと各協議体とは」 ・活動報告を4ブロックから1事例報告	35名

\* 面接技術研修は、各ブロックでもお互いが講師になり、ブロック勉強会で実施している。  
\* 地域包括支援センター(基幹型・サブセンター)職員も勉強会と一緒に参加した数である。

# 加賀市地域包括支援センター自己評価 (基幹型(サブセンター含む)・ブランチ)

## 【経緯】

「地域包括支援センター設置運営について」(老老発第1018001号)において地域包括支援センター業務を委託また直営の場合も市がセンターの運営方針を示すことが望ましく、平成28年3月『加賀市地域包括支援センター基本方針・運営方針』を策定。基本方針を自己評価項目に反映した。

## 【評価目的】

地域包括支援センターブランチ及び地域福祉コーディネート委託業務と基幹型地域包括支援センター(サブセンター含む)業務について、一定の基準にて評価し、その結果を活かしてより良い運営・実践に向けた取組みを推進することを目的とする。

## 【評価回数】

毎年度1回実施する。

## 【評価の仕組み】

- (1) 運営内容を確認するための基準チェックシート
- (2) 事業実施方針を具現化するための実践チェックシート

## 【評価の流れ】

評価結果に関しては、運営推進会議に諮り、地域住民の意見をもらい改善すべき事項については、業務や取組みに反映していく。

## 運営内容を確認するための主な内容(参考)

### <ブランチ>

#### ① 主な基準項目(評価シート1~11)

- ・職員の適正配置(専門職の確保)
- ・提出物の作成と提出状況
- ・緊急時、苦情受付体制整備、個人情報保護
- ・ネットワーク構築、社会資源の把握と支援
- ・総合相談、介護予防の取り組み
- ・中立・公正性の確保

#### ② シートの構成

- ・11項目27設問で全設問「はい」・「いいえ」で回答
- ・「いいえ」の場合は不十分という自己評価

### <基幹型>

#### ① 主な基準項目(評価シート12~15)

- ・認知症高齢者支援、権利擁護、ケアマネジャー支援
- ・ブランチとの連携と支援

#### ② シートの構成

- ・4項目11設問で全設問「はい」・「いいえ」で回答
- ・総評は所長・補佐・係長にて状況や改善策を記入



ブランチ(15か所)	
①項目状況	・「いいえ」なし:7事業所、「いいえ」1項目:5事業所、「いいえ」2項目以上:3事業所
②主な「いいえ」の項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題のまとめ、地区単位の地域ケア会議の開催が出来ていない。</li> <li>・定められた期日までに提出が出来ていない。</li> <li>・基幹型職員と協働して地域の課題をまとめられていない。</li> <li>・相談実件数が75歳以上の高齢者の1割程度ない。</li> </ul>
③総評 (相談実績及び統括表から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期訪問や基本チェックリスト訪問は、対応できる職員を少しずつ増やしブランチ全体で対応できる仕組みにしている。</li> <li>・地域の身近な相談窓口として認知され、ブランチに直接相談する件数が増えている。</li> <li>・軒下マップを活用し、本人の「～したい」暮らしに着目し支援している。</li> <li>・相談ケースの課題から、地域の居場所など地域住民と共に一緒に考え展開している。</li> <li>・地区地域ケア会議を実施しているブランチが増えており、地域の人と共に地域課題の解決に向けて取り組んでいる。</li> <li>・子ども食堂や地域食堂の開設など多世代・他分野を巻き込んだ取り組みが行われている。</li> </ul>
基幹型	
総評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランチの活動から地域課題が見えるように、訪問ケースのデータを見える化し、地域ケア会議で返していく。地区担当が意識して、今後も、ブランチ、地域と共に、地域ケア会議を通して地域づくりを展開していく。</li> <li>・健康課と高齢者の健康づくり、ふれあい福祉課と精神疾患を抱えた高齢者等、暮らし全体を考え、他課との連携を強化し、支援体制を整えてく。</li> <li>・専門職だけでなく地域住民と共に地域包括ケアシステムの構築にむけて強化していく。</li> </ul>